

## 平成29年度 事業報告

### 〔I〕平成29年度事業の方針

本会は、一人ひとりの命の食の営みに寄り添う豊かな人間性と確かな専門技能を身につけ、郷土を愛しその復興に献身する管理栄養士・栄養士が集い、その連帯の力で、食・栄養科学振興事業、食・栄養改善人材育成事業、食生活自律支援事業、食環境整備事業の四つの柱で、公益目的事業を推し進める団体である。

平成29年度は、これまでの実績をもとに、これを一層発展させて、以下五項目を重点として各種公益目的事業に取り組むこととした。

- ・県及び市町村で行う「健康日本21（第二次）」施策等への主体的で積極的な参画
- ・東日本災害にかかる被災者支援、復興支援の活動の展開
- ・地域医療、在宅の医療・療養・介護における栄養管理・栄養ケアを担う人材の育成
- ・健康増進法に基づく情報の提供
- ・公益目的事業をとおしての組織強化・会員拡大

### 〔II〕平成29年度事業の内容

#### I 食・栄養科学振興事業

##### 公1 食と栄養の科学および実用技術を振興させる事業

本事業は、県民の食・栄養と健康に関する調査・研究や技術開発などに取り組むものである（食・栄養科学振興事業）。大きく二つの柱からなり、（1）一つ目の柱では、県民の健康と栄養の実態、栄養指導と食事療法に関する事例や症例などを対象とした調査及び資料の収集を行う。（2）二つ目の柱では、栄養指導と食事療法に関する研究及び技術開発などを行う。この研究及び技術開発には、食と栄養の科学の見地から、郷土の食文化を発展的に将来に伝えること、及び、県産の食材を生かした料理レシピや献立を創作することも含まれる。これらにより、県の人口構成や疾病構造の動態に対応して県民の健康を護る食と栄養の総合的かつ実践的な科学及び技術の振興を図る。

これらの事業は、何れも共通の目的を達成するための手段と位置づけられ、かつ、個々の事業相互が密接に関連しつつ相乗的に効果を発揮する関係にあることから、一体として公1の事業を構成するものである。

#### 1 栄養指導・食事療法・食育等に関する研究・技術開発事業

##### 1-1 福島県栄養改善学会

事業の要旨 年に1回、職域を越えて管理栄養士・栄養士が一堂に会し、「給食管理・栄養指導」「健康教育・食育」「栄養管理（食事療法）」などに関する調査研究を発表する。

本会は、栄養改善学会委員会を立ち上げ、研究テーマの募集、研究発表内容の査読、指導を行っている研究・技術開発事業の一環である。

事業の内容 平成29年12月6日

会場 郡山市労働福祉会館 3階 大ホール

参加者 79名

対象 県民、管理栄養士・栄養士（会員・非会員を問わない）、関連職種、関連研究者

財源 本会会費、受講料

## II 食・栄養改善人材育成事業

公2 一人ひとりの命の食の営みに寄り添う豊かな人間性と確かな専門技術を身につけ、郷土を愛しその復興に献身する管理栄養士・栄養士を育成する事業

県民が、より高い質の栄養指導及び食事療法をより身近に受けることができるように、本事業は、高度の専門的スキルとともに、一人ひとりの命の食の営みに寄り添う豊かな人間性と確かな専門スキルを身につけ、郷土を愛しその復興に献身する管理栄養士・栄養士を輩出するために各種の研修等に取り組むものである（食・栄養改善人材育成事業）。事業の柱は、卒後教育制度（継続教育＝生涯学習制度）として実施される諸種の研修事業である。基幹研修制度と拡充研修制度（特定職域、その他の研修事業）とからなる。

これらの事業は、何れも共通の目的を達成するための手段と位置づけられ、かつ、個々の事業相互が密接に関連しつつ相乗的に効果を発揮する関係にあることから、一体として公2の事業を構成するものである。

### 1 卒後教育の基幹研修制度の運営事業

卒後教育の基幹研修制度は、すべての管理栄養士・栄養士（会員・非会員を問わない）を対象として実施し、専門職業人としての強靱な基礎体力を身につけさせることを目的とする。

主たる対象は管理栄養士・栄養士であるが、関連職種、研究者、一般市民にも参加の機会は開かれている。

#### 1-1 生涯教育研修事業

##### 1-1-1 生涯教育研修事業（全体）

事業の要旨 卒後教育制度の基幹研修制度の中軸である生涯学習研修会を企画・実施する。

事業の内容 3日間、7単位で構成した。研修内容は、「消費エネルギー量の算定理論」「栄養ケアプロセス 栄養管理記録」「小児期からの生活習慣病～子供たちの現状から～」などであった。

対象 県民、管理栄養士・栄養士を主たる対象とする（会員・非会員を問わない）。関連職種

財源 本学会費、受講料

参加者 350名

##### 1-1-2 生涯教育研修事業（県北支部）

研修会

平成29年7月29日

研修会「栄養管理のリスクマネジメント（給食管理のリスクマネジメント）」

講師 福島赤十字病院 医療安全推進室 医療安全管理者 阿部美幸氏

会場 福島赤十字病院

参加者 17名

対象 県民、管理栄養士・栄養士を主たる対象とする（会員・非会員を問わない）。関連職種

財源 本学会費、受講料

### 1-1-3 生涯教育研修事業（県南支部）

研修会

平成29年7月29日

研修会「栄養管理のリスクマネジメント（給食管理のリスクマネジメント）」

講師 公益社団法人福島県栄養士会 会員 黒澤廣子氏

会場 郡山市立中央公民館

参加者 22名

対象 県民、管理栄養士・栄養士を主たる対象とする（会員・非会員を問わない）。関連職種

財源 本会会費、受講料

### 1-1-4 生涯教育研修事業（会津支部）

研修会

平成29年7月29日

研修会「栄養管理のリスクマネジメント（給食管理のリスクマネジメント）」

講師 公益社団法人福島県栄養士会 会員 久田和子 理事 小野知恵 氏

会場 会津大学短期大学

参加者 11名

対象 県民、管理栄養士・栄養士を主たる対象とする（会員・非会員を問わない）。関連職種

財源 本会会費、受講料

### 1-1-5 生涯教育研修事業（いわき支部）

研修会

平成29年7月1日

研修会「栄養管理のリスクマネジメント（給食管理のリスクマネジメント）」

講師 公益社団法人福島県栄養士会 会員 佐藤 夕佳氏

会場 いわき市総合保健福祉センター

参加者 22名

対象 県民、管理栄養士・栄養士を主たる対象とする（会員・非会員を問わない）。関連職種

財源 本会会費、受講料

### 1-1-6 生涯教育研修事業（県北支部）

研修会

平成29年11月11日

研修会「栄養スクリーニング」

講師 公益社団法人福島県栄養士会 会員 小林 英二 会員 飛松 聡氏

会場 福島県立医科大学 S301教室

参加者 10名

対象 県民、管理栄養士・栄養士を主たる対象とする（会員・非会員を問わない）。関連職種

財源 本会会費、受講料

### 1-1-7 生涯教育研修事業（県南支部）

研修会

平成29年11月25日

研修会「栄養スクリーニング」

講師 公益社団法人福島県栄養士会 会員 黒澤廣子氏

会場 学校法人 郡山開成学園 家政学館2階 臨床栄養実習室

参加者 14名  
対象 県民、管理栄養士・栄養士を主たる対象とする（会員・非会員を問わない）。  
関連職種  
財源 本会会費、受講料

#### 1-1-8 生涯教育研修事業（会津支部）

研修会 平成29年11月11日

研修会「栄養スクリーニング」

講師 公益社団法人福島県栄養士会 監事 室井弘子 理事 小野知恵 氏

会場 会津大学短期大学

参加者 23名

対象 県民、管理栄養士・栄養士を主たる対象とする（会員・非会員を問わない）。

関連職種

財源 本会会費、受講料

#### 1-1-9 生涯教育研修事業（いわき支部）

研修会 平成29年11月25日

研修会「栄養スクリーニング」

講師 市地域包括ケア担当：猪狩 僚氏 作業療法士：木田 佳和氏

歯科衛生士：島 美香氏 副会長：加藤 すみ子氏

会場 いわき市総合保健福祉センター

参加者 35名

対象 県民、管理栄養士・栄養士を主たる対象とする（会員・非会員を問わない）。

関連職種

財源 本会会費、受講料

#### 1-2 総会時研修会

平成29年6月17日

事業内容の要旨 本会の定時総会と併せて研修会を開催する。

事業の内容 専門職としての役割と倫理綱領の講演を開催した。

講師 公益社団法人日本栄養士会顧問弁護士

セントラル法律事務所 弁護士 早野 貴文氏

会場 郡山市総合福祉センター 5階 集会室

参加者 527名（委任状を含む）

対象 研修会の部分に限り、管理栄養士・栄養士を対象とする（会員・非会員を問わない）。

財源 本会会費

#### 1-3 日本栄養士会との共同研修会

事業の要旨 管理栄養士・栄養士業務上有意義かつ時宜に適したテーマを掘り下げて、実務に生かす方法を習得させるための研修会を、日本栄養士会と共同で企画・実施する。

事業の内容 本会の企画立案で、平成29年7月15日に医歯薬出版株式会社「日本臨床栄養研究会」および平成29年9月9日には、一般社団法人Jミルク「栄養指導実践セミナー」を実施した。

1-3-1 「日本臨床栄養研究会」

講師 郡山医師会副会長 原 寿夫氏  
南大和病院 栄養部 工藤 美香氏  
会場 郡山市労働福祉会館 2階 中ホール  
参加者 92名

1-3-2 「栄養指導実践セミナー」

講師 一般社団法人 適塩・血圧対策推進協会 代表理事 岡山 明氏  
東京栄養食糧専門学校 非常勤講師 林 進氏  
一般財団法人竹田健康財団竹田総合病院栄養科科长 室井 弘子氏  
会場 郡山市労働福祉会館 3階 大ホール  
参加者 61名  
対象 県民、管理栄養士・栄養士（会員・非会員を問わない）。関連職種  
財源 助成金（日本栄養士会）

1-3-3 『ほっこり事業』

事業内容の趣旨 日本栄養士会では、東北被災3県（岩手・宮城・福島）の栄養士会とともに平成26年度より復興庁事業である「新しい東北」先導モデル事業として、『ほっこり・ふれあい食事プロジェクト』に取り組んできた。本事業の目的は、仮設住宅から公営住宅等への移転がすすむ今、これらの地域における高齢者の新たなコミュニティ形成、健康増進等に向け実施している。平成28年度からは日本栄養士会の公益事業の1つとして実施し、拡充を図っている。

栄養と食をキーワードとした高齢者と子どもとのふれあいを全国レベルで展開することにより、孤食、生活不活性発症予防等の課題に対して、適切な栄養管理と、高齢者の役割・生きがい等を創出するしくみを整備、強化することを目指す。

対象 保育所、被災高齢者が対象 管理栄養士・栄養士は支援

- (1) 白河市立わかば保育園と白河市域の被災高齢者
  - 第1回「七夕会」 平成29年7月5日
  - 第2回「りんご狩り」 平成29年11月6日
  - 第3回「新年子ども会」 平成30年1月11日
- (2) 広野町の幼児と老人会
  - 第1回「誕生会」 平成29年9月25日
  - 第2回「お楽しみ会」 平成29年10月19日
  - 第3回「実りの秋に感謝」 平成29年11月16日
  - 第4回「カレーパーティー」 平成29年12月25日

## 2 拡充研修制度（特定職域その他の研修）の運営事業

拡充研修制度は、基幹研修制度を補完し発展させる研修である。職域の業務特性に由来する。

管理栄養士・栄養士を主たる対象とする（会員・非会員を問わない）。管理栄養士・栄養士以外の関連職種（医療職、福祉職、教職等）や、研究者、市民の参加も可能である。

### 2-1 医療職域協議会研修会

事業内容の要旨 医療に関わる管理栄養士・栄養士、栄養・食事関連の医療従事者などを対象として、食事療法（栄養管理）の基礎的な学習と最新情報の習得を図るための研修会を開催する。

事業の趣旨等 疾病ごとの病態とこれに適合的な食事療法（栄養管理）を掘り下げて学習させ、専門的な知識・技能の向上を図った。

研修会 「医療栄養士研修会（日本調理技術専門学校）介護食」 平成29年8月24日

講師 日本調理技術専門学校

介護食講師 田中 勇大 氏

会場 学校法人 永和学園 日本調理技術専門学校

参加者 31名

対象 県内医療施設に従事する管理栄養士・栄養士（会員・非会員を問わない）。関連職種

依頼元 東北電力株式会社

財源 受講料、助成金（東北電力）

研修会 「医療栄養士研修会（日本調理技術専門学校）介護食」 平成29年9月26日

講師 日本調理技術専門学校

介護食講師 田中 勇大 氏

会場 学校法人 永和学園 日本調理技術専門学校

参加者 33名

対象 県内医療施設に従事する管理栄養士・栄養士（会員・非会員を問わない）。関連職種

依頼元 東北電力株式会社

財源 受講料、助成金（東北電力）

研修会 「栄養情報提供書研修会」 平成29年11月27日

栄養情報提供書を学ぼう① 講師：室井 弘子氏

栄養情報提供書を学ぼう② 講師：寺島 由美子 氏

会場 郡山市労働福祉会館

参加者 56名

対象 県内医療施設および福祉施設に従事する管理栄養士・栄養士（会員・非会員を問わない）

依頼元 公益社団法人 日本栄養士会

財源 受講料

研修会 「栄養情報提供書研修会」 平成30年2月8日

栄養情報提供書を学ぼう① 講師：織田 由美子氏

栄養情報提供書を学ぼう② 講師：寺島 由美子 氏

会場 郡山市労働福祉会館

参加者 31名

対象 県内医療施設および福祉施設に従事する管理栄養士・栄養士（会員・非会員を問わない）

依頼元 公益社団法人 日本栄養士会

財源 受講料

その他

「栄養ワダ-2017」 1. 竹田総合病院 2. 福島赤十字病院 3. 太田西ノ内病院 4. 太田熱海病院  
5. 福島県立医科大学

### Ⅲ 食生活自律支援事業

公3 県民が健全で稔り豊かな食生活を行う力を身につけることができるよう支援する  
事業

健康増進法は「生涯にわたる国民の栄養摂取の改善に向けた自主的な努力を促進する」（健康増進法第30条の2第1項参照）ことを謳っており、本事業は、県民のかかる「自主的な努力」を、栄養指導・食事療法・食育の理論と技術を生かして支援し、もって、県民の健全な食生活・食事摂取を自律的に営む力を育もうとするものである（食生活自律支援事業）。本事業は、3つの柱からなり、（1）1つ目の柱では、「個別特性対応型の食の自律支援事業」として、個々の県民の個性・特性に合わせた栄養指導その他の専門的支援を組織的に行う。（2）2つ目の柱では、「集団特性対応型の食の自律支援事業」として、広く県民に対し、食生活の質の向上、食事を含む生活習慣の見直しと改善に役立つ知識や知恵、実用技術の普及などを行う。（3）3つ目の柱は、食・栄養と健康に関する情報コミュニケーション事業である。

これらの事業は、いずれも共通の目的を達成するための手段と位置づけられ、かつ、個々の事業相互が密接に関連しつつ相乗的に効果を発揮する関係にあることから、一体として公3の事業を構成するものである。

#### 1 個別特性対応型の食の自律支援事業

対象者の個別特性に対応する栄養指導・食事療法を、本会の公益目的事業として組織的に実施するものであり、管理栄養士・栄養士の高度の実務的な専門性が直接反映される事業である。

##### 1-1 栄養ケア・ステーション事業

事業の要旨 市町村や医療機関（診療所）、社会福祉施設等からの栄養指導等の業務依頼に対応できる所（ステーション）である栄養ケア・ステーションで、各市町村からの要望に応じて栄養指導、及び料理教室、県民向けの講演活動等に取り組む。

栄養ケア・ステーションの事業は、主として個別特性対応型の食の自律支援活動を地域密着型で掌り（もとより、集団特性対応型の食の自律支援事業も担当する）、地域住民の健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとするものである。それゆえ、栄養ケア・ステーションの事業は、地域住民の健康維持、増進に直接寄与するものを主たる対象とする。本会の栄養ケア・ステーションは平成20年から立ち上げた。

事業の内容 以下のとおり実施した。

1-1-1 事業報告 平成29年度 高齢者活躍人材育成事業講習  
8日間 (会津会場、白河会場 各4日間)

対 象 県民一般

依頼元 公益社団法人 福島市シルバー人材センター

財 源 業務手数料

参加者 31名

1-1-2 事業報告 平成29年度高齢者スキルアップ・就職促進事業  
14日間 (福島会場、須賀川会場 各7日間)

対 象 県民一般

依頼元 公益社団法人 福島市シルバー人材センター

財 源 業務手数料

参加者 32名

その他 実施件数 13件

## 1-2 無料職業紹介事業

事業の要旨 管理栄養士・栄養士を雇用したい企業等に対し職を求めている管理栄養士・栄養士を紹介するマッチング事業(会員以外も含む)管理栄養士・栄養士の雇用支援  
・病院・施設・養成校等から求人依頼 5名

## 1-3 被災者支援活動事業

事業の要旨 県内各市町村の仮設住宅の居住者及び借り上げ住宅の居住者を対象に、それぞれの個別特性に適合した栄養指導、栄養ケアを行う。

事業の内容 被災者支援の栄養ケア活動である。本県は東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故により被災し、県民が県内外の仮設住宅、借り上げ住宅などで生活している。これらの被災者に対しては特段の支援が必要であることから、県内各保健福祉事務所、各市町村などの要請に応じて、本会の管理栄養士・栄養士が、被災者に対し、栄養指導、食事指導、調理指導などを行った。

対 象 被災県民

受託元 福島県

工夫点 被災者支援事業は個別対応が原則であり、具体的な事業実施の計画立案等は、法人が、専門職としての会員の蓄積を生かしながら、個々の被災者の心身の状況を踏まえ、独自に創意工夫を凝らしてこれを行うのが必須である。

財 源 受託料

## 1-4 管理栄養士・栄養士人材確保支援事業

### (1) 管理栄養士・栄養士人材確保就職準備金貸付事業

事業内容の要旨 東日本大震災以降の本県における管理栄養士・栄養士の人材不足は



深刻であるが、これらは本県特有の課題であるため、緊急的対策とし、相双・いわき地域等における管理栄養士・栄養士就職者を定着させるための就職準備金貸付事業及び支援事業を行った。

対 象 管理栄養士

委託元 福島県

財 源 受託料

(2) 管理栄養士・栄養士県内就職定着のための支援

①県内就職定着のための職場見学・仕事説明会

事業内容の要旨 相双・いわき地区を中心とした、県内において管理栄養士・栄養士の就職者を増加させるとともに、離職防止のための職場見学会・仕事説明会を開催した。

対 象 管理栄養士・栄養士・養成校の学生

委託元 福島県

財 源 受託料

②管理栄養士・栄養士人材バンク推進事業

事業内容の要旨 相双・いわき地区を中心とした、県内への管理栄養士・栄養士の就職者を増加させるため、県内の就職求人情報を提供する「管理栄養士・栄養士人材バンク」を設置する。県内の就職先（求人事業所等）と県内外の求職者に広く周知するため、広報活動を行った。

対 象 管理栄養士・栄養士

委託元 福島県

財 源 受託料

### 1-5 福島県地域包括ケアシステム構築推進事業

事業内容の要旨 全市町村における自立支援型地域ケア会議の実施を支援するために、地域ケア会議の助言者となる専門職の人材育成を目的とした研修会に参加し、モデル市町村の自立支援型地域ケア会議に対する現地支援を行う。

地域ケア会議の助言者となる専門職の市町村自立支援型地域ケア会議 11市町村で46回実施

対 象 管理栄養士

依頼元 福島県

### 1-6 イベント協力の栄養相談（栄養指導）事業

事業内容の要旨 各種イベント会場など、直接、県民とふれあう場において、個々の県民の個性や特性に合わせた栄養指導・食事指導を行った。県民が多く集まる機会（イベント）において栄養指導・食事指導を行い、県民の食の自律を図るものである。

対 象 県民である。

財 源 会費

事業の内容 以下のとおりである。

- (1) いわき市「介護フェア inいわき2017」  
平成29年4月23日  
会場 いわき市総合保健福祉センター
- (2) 福島市ピンクリボン啓発  
平成29年5月14日  
会場 福島市駅前広場
- (3) いわき市「食育インフォメーション」  
平成29年6月15日・20日  
会場 いわき市総合保健福祉センター
- (4) ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業における医療体験セミナー  
平成29年7月19日  
会場 ビックパレットふくしま
- (5) 8月4日「栄養の日」イベント  
平成29年8月4日  
会場 竹田総合病院
- (6) 食生活改善及び健康増進普及月間街頭啓発事業  
平成29年9月8日  
会場 イトーヨーカドー 平店
- (7) 会津若松市健康まつり  
平成29年9月17日  
会場 会津若松市民文化センター
- (8) 「ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業における医療体験セミナー」  
平成29年9月18日  
会場 郡山市ビッグパレットふくしま
- (9) 福島市健康フェスタ2017  
平成29年9月24日  
会場 アオウゼ
- (10) いわきの地域医療をマネージメントする 山本ゼミ ランチ提供  
平成29年9月24日  
いわき市中央台公民館
- (11) 第4回 いわき・わくわく・食育フェスタ  
平成29年9月30日  
会場 いわき市総合保健福祉センター
- (12) チャレンジふくしま県民運動  
平成29年10月14日、15日  
会場 県営あづま総合体育館

(13)健康長寿いきいき県民フェスティバル

平成29年10月22日

会場 郡山市ビッグパレットふくしま

(14) 福島市食育フェスタ

平成29年11月5日

会場 こむこむ

(15)「保健・福祉フェスティバル郡山2017」

平成29年11月5日

会場 郡山市ビッグパレットふくしま

(16) 介護フェア

平成29年11月11日

会場 いわき短期大学他県内5か所同時開催

(17) 喜多方市民健康祭

平成29年11月12日

喜多方市押切川公園体育館

(18) チャレンジふくしま県民運動よしもと大運動会

平成30年2月24日

会場 いわき市立総合体育館

1-7 総務省「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業

「栄養士と学ぶプログラミング講座」の実施

◆メンター育成事業：第1回6月24日（土） 郡山市総合福祉センター

第2回7月22日（土） 郡山市労働福祉会館

第3回9月2日（土） 郡山市労働福祉会館

本県栄養士会員（栄養教諭・学校栄養職員）12名がコンピュータを用いて「バーチャル・クッキング」をキャッチフレーズに、栄養士がビジュアル言語Scratch(スクラッチ)を使ってプログラミング教育を実施した。

メンター教育15時間実施

◆実証校授業公開 9月16日（土）実施

白河市立表郷小学校 「土曜学習会」（白河市教育委員会）

授業時間：3時間 「マンブクレストラン」

2 集団特性対応型の食の自律支援事業

県民の総体その他の不特定多数の者の集団的特性を踏まえ、県民の健全な食生活を自律的に営む力を育むために、管理栄養士・栄養士の専門科学上及び実務上の知見を生かして支援を行う事業である。

2-1 食育推進活動関連

2-1-1 地域の子育て食環境事業

## 栄養・食生活指導支援のための管理栄養士・栄養士の派遣

事業の要旨 栄養士未配置の保育所等に対する、給食献立のアドバイスや、保護者等に対する栄養・食生活指導、スリムアップにおける食生活指導等を実施することを通して、子どもの発育・発達段階に応じた望ましい食生活の定着を図るとともに、円滑な指導体制づくりを進めた。

事業の内容 栄養士未配置保育所に対する給食献立アドバイス。保護者等に対する栄養・食生活指導。福島県食育応援企業団などにおける、スリムアップイベント「おいしく食べて元気に動こうキャンペーン」における栄養指導等。

対 象 県内の保育所、幼稚園及びその保護者

受託元 福島県

財 源 受託料

### 2-1-2 ファイブ・ア・デイ (5ADAY)

県内の大型スーパーマーケットにて食育推進事業を展開する。本会の管理栄養士・栄養士が講師となり、近隣の小学生に直接食育指導を実施した。各学校、県教育事務所など教育機関との連携事業。

対 象 県民一般(主として小学生)

委託元 一般社団法人ファイブ・ア・デイ協会

財 源 委託料

実施回数 59回

工夫点 食育を通して福島の食文化の視点から日本の食文化を再発見し、次代に継承するとともに、地産地消の大切さを実感する機会の提供。

### 2-1-3 ウェルネスセミナー

県内の団体を対象に食育活動を実施。本会の管理栄養士・栄養士が講師となり、食育講演を行う。

対 象 県民一般

委託元 大塚製薬株式会社

財 源 委託料

実施回数 5回

## 3 栄養情報コミュニケーション事業

県民の栄養改善や健康の保持増進に資する正しくわかりやすい食と栄養・健康に関する情報を発信して、県民と豊かなコミュニケーションを行う。本事業は、栄養指導・給食管理・食事療法をもって県民の健康増進と疾病の予防・治療・療養に寄与することを任務とする管理栄養士・栄養士の職能団体として、情報の発信とコミュニケーションを図った。

### 3-1 情報発信

テレビ等による栄養情報の発信

### 3-2 健康栄養訴求媒体の貸し出し事業

情報の発信とコミュニケーションは、印刷物その他の媒体を使って、個別特性対応型の食の自律支援事業と集団特性対応型の食の自律支援事業の際に実施した。平成29年度は、3件の貸し出しがあった。

### 3-3 ホームページの設営及び栄養ふくしまの発行

(1) ホームページ ( <http://www.fukushima-eiyoushikai.or.jp/> ) の設営

ホームページを活用し、健康栄養に関する重要な情報を県民に発信した。

(2) 栄養ふくしま

年に1回発行し、健康栄養に関する情報、管理栄養士・栄養士の活動を県民に発信した。

## IV 食環境整備事業

### 公4 県民の健康を育む食環境の整備を行う事業

県民の健全な食生活の形成に寄与しうる地域社会の諸資源(人と物と仕組み)を有機的に結び付け、その機能を改善・活性化させることにより、望ましい食環境の整備を図る事業である(食環境整備事業)。(1) 栄養・食生活の改善を支援する保健、医療、福祉及び教育等の分野の各職種や有識者、自治体等の連携・協働関係の構築、(2) 地域社会における栄養・食生活の改善活動の担い手の顕彰、(3) 適正な食生活を応援する公共又は民間の諸制度の運用改善の取り組みなどの柱からなる。これは県民の健全な食生活を支える地域社会づくりの事業でもある。

これらの事業は、いずれも共通の目的を達成するための手段と位置づけられ、かつ、個々の事業相互が密接に関連しつつ相乗的に効果を発揮する関係にあることから、一体として公4の事業を構成するものである。

### 1 連携・協働関係の構築事業

#### 1-1 地域連携組織の拡充事業

事業の要旨 地域住民の健全な食生活を支える食環境を整備するため、これに資する地域基盤の各種委員会や協議会に参画し、その連携と活動の強化に寄与する。

事業の内容 地域社会に働きかけて公衆衛生の向上を目指す地域連携組織に参画し、その活動をととして健康な地域社会づくりを行い、公衆衛生の向上に寄与しようとするものである。

対象 県民(地域社会の住民一般)

財源 会費

(地域連携組織) 食の安全・安心福島推進連絡会議、健康ふくしま21推進県民大会、日本公衆衛生協会福島県支部、福島県介護予防市町村支援委員会、福島県医師会、福島県看護協会、福島県歯科医師会、福島県歯科保健対策協議会、福島県病院給食連合研究大会、福島県社会福祉協議会、福島NSTフォーラム、福島公衆衛生協会、郡山公衆衛生協会 福島県女性団体連絡協議会、チャレンジ福島県民運動推進協議会

## 2 顕彰事業

事業の要旨 栄養改善のために顕著な功績のある者を顕彰し、その功績を世間に知らしめることは、その者を励ますのはもとより、広く県民に栄養改善運動を普及・奨励することとなる。本年度は顕彰事業の制度整備を行う。将来、栄養士会として食育事業に関わっている事業を顕彰する制度を整える。

対 象 県民とし、そのうち管理栄養士・栄養士（会員・非会員を問わない）。その他栄養改善のために顕著な功績のある者である。

財 源 会費

## 3 県民の健全な食生活を支援する制度の整備

### 3-1 県民の健全な食生活を支援する制度の整備事業

事業の要旨 県民の健全な食生活を支援する制度の整備をとおして県民の健全な食生活を支援するものである。

事業の内容 県民の健全な食生活を支援する制度には多様なものがある。専門職制度自体がそうであるし、食品の栄養学的な適合性（栄養成分表示）や安全・安心に関わる制度なども含まれる。本会は、管理栄養士・栄養士の専門性を生かして、各種制度の立案・形成や運用、改善などに関わることによりこれら制度の整備を図った。

対 象 県民

財 源 会費

### 3-2 地域拠点となる栄養ケア・ステーションの整備事業

事業の要旨 県民の健康づくりに地域の特性を活かして支援する地域拠点を整備する事業である。

事業の内容 県民の「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」を目指した「すこやかふくしま」創造は、県民の願いである。これを実現するには、県内全地域に、県民の健康づくりを、それぞれの地域特性を活かして日常的に支援する地域拠点が設ける必要がある。こうした地域拠点として、地域基盤の栄養ケア・ステーションの設置・整備を図った。

## 〔Ⅲ〕 本会の運営にかかる取り組み

### 1 組織拡充と財政基盤の強化に向けた取り組み

公益目的事業を旺盛に展開して会員・非会員の事業参加を促進する中で、本会の必要性を実感してもらい、既存会員の活性化と新規会員の獲得を図る取り組みを実施した。会員の拡充及び賛助会員の確保による収入の増加と経費の節減により、本会の財政基盤の強化に努めた。

以 上